

新しいあいちの健康福祉ビジョン（仮称）素案の概要

第1章 ビジョンの策定

1 これまでのあいちの健康福祉

- 「21世紀あいち福祉ビジョン」の推進
- 計画期間
平成13年度～22年度
- 基本目標
自立と自己実現を支える福祉

3 新たなビジョンの策定

- 「新しいあいちの健康福祉ビジョン（仮称）」
- 計画期間
平成23年度～27年度
- 内容
新たに医療分野を加え健康福祉全般を対象

2 これからの社会の動き

① 超高齢社会の到来

- ・ 平成27年には4人に1人が高齢者（平成22年は5人に1人）
- ・ 平成37年には75歳以上人口が倍増（平成22年：661千人→平成37年：1,164千人）

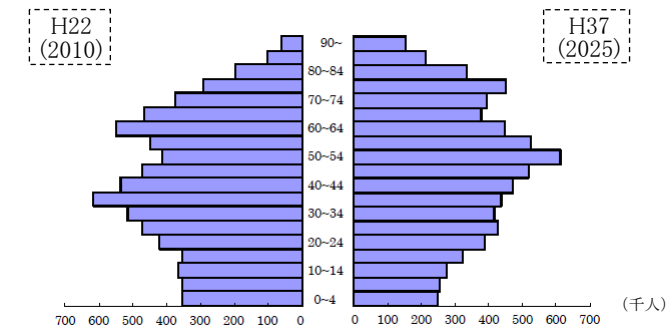
区分	愛知県全人口(千人)	年齢3区分別人口(千人)				高齢化率	
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上	(65歳以上の割合)	うち75歳以上
H22(2010)	7,417	1,079	4,833	1,505	661	20.2%	8.9%
H27(2015)	7,481	1,028	4,672	1,781	793	23.8%	10.6%
H37(2025)	7,444	887	4,594	1,963	1,164	26.4%	15.6%

資料：H22「あいちの人口（平成22年10月1日現在）」、H27・37「政策指針2010～2015」による推計

② 少子化と人口減少社会の到来

- ・ 平成21年合計特殊出生率は1.43（昭和46年は2.28）
- ・ 今後人口は減少に転じ、平成37年には生産年齢人口2.3人で高齢者1人を支える社会となる（平成22年は3.2人で1人）

本県の人口ピラミッド（男女計）



③ 家庭の変化

- 高齢者のみの世帯やひとり親世帯の増加
- 家庭・家族のつながりの希薄化

④ 地域社会の変化

- 地域のつながりの希薄化
- NPOなどによる支え合い活動の活発化

⑤ 健康福祉ニーズの多様化・複雑化

- 働き方・家族形態・価値観などの多様化によるニーズの多様化・複雑化

⑥ 安心を支える社会システムへの信頼感の低下

- 医師不足により約2割の病院で診療制限
- 毎年1,500人前後の県民が自殺
- 新型インフルエンザのまん延
- 生活保護受給者の増（10年間で2.5倍）
- 年金など社会保障制度の持続可能性への不安

⑦ 地方分権の進展

- 国・県・市町村の役割分担の見直し、市町村主体の健康福祉サービスの提供
- 多様な主体の協働

第2章 基本とする考え方

1 基本理念

目指すべき健康福祉社会像のイメージを「みんなが地域で支え合いながら、安心して健やかに暮らすことのできる社会の実現」のように次のキーワードなどを用いて提示

安心、希望、尊厳、健やか、支え合い、共生、協働、地域で暮らす、生活の質の向上 等

2 基本とする視点

（各分野の取組に共通する留意点）

- ① 家庭の機能を支える
- ② 地域全体で支え合う
- ③ 一人ひとりの生き方と可能性を尊重する
- ④ 予防・早期対応を重視する
- ⑤ 持続可能なシステムを構築する
- ⑥ 役割分担を明確化する

第3章 施策の方向

第1節 福祉

- ① 高齢者がいきいきと暮らせる社会へ
- ② 子どもと子育てにათათかい社会へ
- ③ 障害のある人が安心して暮らせる地域社会へ

第2節 保健・医療

- ① 誰もが健康で長生きできる社会へ
- ② 必要な医療が受けられる社会へ

第3節 地域

健康福祉の地域力が充実した社会へ

◆ 詳細は次頁以降に記載

第4章 ビジョンの推進

- 「健康福祉ビジョン推進本部」において進行管理を行い、進捗状況を公表
- 「圏域保健医療福祉推進会議」の活用等により地域の実情に応じて推進
- 社会情勢の変化等に対しては柔軟かつ的確に対応

家庭や地域のつながりの希薄化に対応し、一人ひとりの尊厳を守りながら、予防や早期対応により事態の深刻化を防ぎ、限られた資源を有効に活用

かつてない少子高齢化、命を守る医療などに地域社会全体で対応